

平野ヶ丘



多治見市立養正小学校
校報『平野ヶ丘』

令和4年度 学校報 第13号
令和5年3月22日(水)発行
「みなさまのおかげで、本年度
創立150周年を迎えました。」



『これぞ、養正の子！ これぞ、養正小学校区！』

← 卒業式練習、少ない回数でもしっかりと仕上がっています！

校長 熊崎 健一

3月上旬に、地域の方から次のようなお手紙を頂戴しましたので紹介します。

近所の子（5年生女子2人の名前）が保育園の頃から仲良しになり、今に至っています。

毎週金曜日の午後4時過ぎから5時までのほんの短い時間です。今まで遊んでもらった（あげた？）ことは、いろいろあります。昔ながらの遊びで、なわとびや福笑い、トランプ、あやとり、お手玉、まりつき、バドミントン、ボール投げ、坂上湧水公園でのサッカーなどなど…。料理もやってみたいというので、お菓子のマフィンも一緒に作りました。まるで学童保育のひとコマのようですが、主人も巻き込んで楽しむことができました。その中で、この子たちのやさしい心を感じた出来事の一つをお知らせします。

コロナ禍で運動会の参観人数が制限されていた頃のことです。「家族しか学校へ見に来ることができないから、今ここで私たちが踊って見せてあげるからね！」「畑にいるおじさんも呼んできて！」「音源はYouTubeで出すから、おばさんのスマートフォンを貸してね！」という、どんどん用意をして踊りを披露してくれたのです。『ソーラン節』。それはかっこよく、何度も踊って見せてくれました。次の年は、沖縄の曲（エイサー）と、彼女らの姿にすっかり見入ってしまったものです。

彼女らの親御さんの子育てや、日頃の先生方のご指導のおかげとありがたく思っています。筆足らずですが、彼女らのやさしさをお知らせさせていただきました。養正小学校では、いい子が育っています。

年度末に、このようなお便りを紹介できるのは嬉しい限りです。また、養正小学校の子どもたちに関わっていただき、よさに気付いていただき、わざわざ筆を取ってくださったお手紙の主にも感謝申し上げたいと思います。彼女らの行いには、子どもらしい優しさが溢れています。家庭で、地域で、そして学校で様々な人と接し、多くのことを考え、学び育っている子どもたちの姿に頼もしさを感じます。「これぞ、養正の子！これぞ、養正小学校区！」これからも、養正小学校の子どもたちとともに“地域の学校”を創造していきたいと思います。

最後になりますが、保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、今年度1年間、子どもたちのため本校のために、多大なるご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございました。

春は、別れと出会いの季節 ～令和4年度末 教職員定期人事異動～

明日は、卒業式。明後日は、後期終業式・修了式。子どもたちは、それぞれにフィナーレを迎えようとしています。それは同時に、別れの時でもあります。養正小学校との別れ…、友達との別れ…、そして先生との別れ…。

本年度も、定期人事異動により何名かの教職員が、お世話になった養正小学校を去ることになります。新聞発表は27日(月)ですので、転出者をここでお知らせすることはできませんが、紙面をもって転出者からお礼を申し上げます。「お世話になり、本当にありがとうございました。これからも、養正小の子どもたちの成長を願っています。」

春は、別れの季節ですが、新たな出会いの季節でもあります。4月から、6年生は中学校に進学し(何年ぶりに卒業生も離任式に参加できるようにしました)、在校生も進級し、教職員も新たなメンバーを加えてスタートとします。束の間、別れを惜しみつつ、新たな出会いに期待を膨らませながら新年度を迎えたいものです。

